

平成28年度 第4回 昭島市子ども読書活動推進計画策定委員会
会議録（要旨）

[開催日時] 平成29年1月18日（水） 18:30～19:30

[開催場所] 昭島市民図書館 2階 閲覧室

[出席者]

- 1 委員：俣田委員長、真如副委員長、中島委員、久米委員、大串委員、河村委員、
 藺田委員
- 2 事務局：石川市民図書館長、小澤係長、井上係長

[欠席者] 武藤委員、清水委員、山崎委員

[議事要旨]

1 議題

- (1) 昭島市子ども読書活動推進計画庁内検討委員会の計画（案）について
 の審議

2 その他

[配布資料]

- 1 日程
- 2 第三次昭島市子ども読書活動推進計画庁内検討委員会の計画（案）
- 3 第三次昭島市子ども読書活動推進計画（案）に対するパブリックコメント
 （意見募集）の結果

[発言要旨]

1 議題

- (1) 昭島市子ども読書活動推進計画庁内検討委員会の計画（案）について
 の審議

委員長：10月6日に行われた第3回昭島市子ども読書活動推進計画策定委員会において、12月にこの計画（案）をパブリックコメントにかけるという説明があった。本委員会の目的は、市が計画している第3次昭島市子ども読書活動推進計画の策定に関することについて必要な事項を検討し、その結果を教育長に報告するということになっている。従って今日の委員会はパブリックコメントの意見を

どのように計画（案）に反映させるかということが中心になる。

パブリックコメントの状況としては、この策定委員会で検討してきた素案に対して大きな修正を求めるような意見はなく、逆に、激励の意見などがあつたと聞いている。パブリックコメントと市の考え方について今日初めて配付されているので、今からご覧いただき、その後、市から説明をしていただき、さらにその後検討するという流れで進めてまいりたい。

事務局： パブリックコメントでいただいた意見及び市の考え方について説明させていただきます。

その前に、第3回策定委員会から3ヶ月経っている。これまでブックスタートという言葉が出てきていたが、この言葉に疑義が出た。ブックスタートをまとめている団体に聞くと、ブックスタートとは、0歳児検診などの機会に赤ちゃんに絵本を楽しむ体験、本を提供するのと読み聞かせをするという内容と聞いた。

昭島市では本の贈呈はしているが、読み聞かせはしていないのでブックスタートという言葉を外し、他の用語に置き換えた。たとえば市民図書館の事業であれば「初めて出会う絵本コーナー」という言葉に変え、乳児家庭全戸訪問事業で絵本をプレゼントしている事業については、事業名を「誕生祝記念品の贈呈」というように具体的に名称を変えた。

続いてパブリックコメントの説明をさせていただく。パブリックコメントの結果と、昭島市子ども読書推進計画（案）と同時に説明させていただく。パブリックコメントは、10人42項目の意見をいただいた。

先程委員長からいただいたお話や、この委員会の時間的なところもあり、意見を3つに分けて説明する。

- 1 素案の変更に伴うものが4項目
- 2 てにをは程度の変更に1項目
- 3 意見では素案の変更を求めているが、素案は変更せずに後の取り組み等に対応を考えるとしたものが3項目

この順番で説明させていただく。

- 1 素案の変更に伴うもの

・パブリックコメントの結果 No. 1

計画（案）の3ページで「人生をより深く」とお示しさせていただいた。ご意見では、「よりよく」という言葉はいかがなものかというご意見をいただいた。検討し、計画（案）30ページ、子どもの読書活動の推進に関する法律第2条に「人生をより深く生きる力を身に付ける」とあるので、この文言を3ページに採用し修正させていただいた。

・パブリックコメントの結果 No. 2

アンケートの説明をもう少し細かく、と意見をいただいた。これは教育委員会が行ったアンケートであるが、計画（案）の5ページをご覧いただきたい。赤字でお示しさせていただいたが、調査対象と調査方法を記入させていただいた。

・パブリックコメントの結果 No. 19

No. 19 の意見では事業担当間の連携を求める意見がある。この書き込みとして計画（案）29 ページに委員会の構成と目的を赤字でお示しした。なお、本委員会でご議論いただいた「今後、読書活動を高めるための調査研究や情報収集」は大事なところであるのでそのまま残した。

・パブリックコメントの結果 No. 24

赤字で修正した。「母子保健行政」という言葉を使わせていただいた。

2 てにをはの修正

・計画（案）18 ページ、3 計画の基本的な方針のなかで、「次の5つの視点」に「の」が入っていなかったということで赤字で「の」を記載し追加した。

3 意見では素案の変更を求めているが、素案は変更せずに後の取り組み等での対応を考えるとしたもの

・パブリックコメントの結果 No. 10

ここでは「つなぎ役」ということについてももう少し具体的な書き込みを、というところである。計画（案）17 ページ⑤子どもを取り巻くおとなのところ、「つなげる担い手」とあるが、この文章全体として半抽象的であるので具体的な取り組みを書くのはいかがかというところである。市の考え方としては、後のページで具体的に書いてあるとし、計画（案）の変更は行わないとした。

・パブリックコメントの結果 No. 20

具体的な書き込みを、と書かれている。市の考え方としては、具体的な事業については本計画に基づき、学校、市民図書館、はじめ各事業担当部署において、年度ごとに予算を立てる際の事業計画にて具体的に図っていくということで、変更なしでこのような考え方をお示ししたいと考えている。

・パブリックコメントの結果 No. 38

ボランティアの活動の部分についても具体的な取り組みを書くべきではないか、ということだが、様々なボランティアの方々が活動している。具体的な書き込みについては変更なしで、今後検討していく。

委員長：回答が多岐にわたり大変だったのではないかと思います。

先程ご説明があったように、全体を素案の変更に伴うもの、てにをは程度の軽い文言の修正のもの、素案の変更を求めているが変更せずに後の具体的な取り組みのところでの対応を考えるとしたものをご説明いただいた。

少しご覧いただきながら、この結果のページに沿って計画（案）の練り直しが

妥当かどうかご意見をいただきたい。

委員 具体的な文言というか、計画の文言についてというよりは「希望」である。今やっていることについてこうしてほしいとか。そういうものは具体的な計画に基づいて毎年それぞれの担当の事業等のなかで実現していけばいいと思うので、あまりこの計画（案）の文言を変えるようなものはない。

パブリックコメント4ページに目標があるが、具体的に目標というのは計画のなかで目標を設定してそれに向かってやるような、そういうことではなくて、今行われている貸出冊数やそういったことについての意見か。

計画（案）6ページ、③不読者を取り巻く環境の「家の中に本がある」の項目で、1冊以上読んでいる児童・生徒の割合が92.1%で、読んでいない児童・生徒の割合が69.6%というのはどういうことか。

つまり、家の中に本がある家庭では、1冊以上読んでいる割合が92.1%だが、読んでいない生徒は全体を100%とすると、もっと少ない感じがする。これは100%ではないからカウントの仕方が別にあるのかと思うが。これは何なのか。

事務局：目標は今行われている図書館における貸出冊数とかの目標である。都に照会したところ、この調査では複数回答可ということでこのような数字になっているとのことである。全体的にみて、身近に読書環境があるところは率が高くなっている。家の中に本があれば、やはり身近に取れるから本を読むことができる。本がないと読んでいないということで数字が低くなっている。そういうところをお示ししたくお出しした。

委員長：単純に、家の中に本がある子は本を讀んでいて不読率は低い、ということではないのか。

委員：そう思う。

委員長：読んでいない子はやはり家の中に本があることはあるが少ない。

この表はそのように素直に読んでいいのかなと思う。

様々な市民の方のご要望に関しては、新しい図書館が出来た時に更に改善されることがあると思う。気が付けば2年後である。委員がおっしゃったように、具体的な取り組みの中で行っていただければと思う。

大きなご意見がないようであれば、赤字で訂正された部分について再度確認を一通りし、その後でご意見があればいただいて、という流れでいかかがか。

まず3ページ、「人生をより深く」ということで、法律のなかにある文言ということでそれを取り上げたというご説明である。

5ページ、調査の対象と方法を入れた。

15ページ、ブックスタートという言葉は除いて、「初めて出合う絵本コーナー」に変えた。

19ページ、事業名を変え、「赤ちゃんと絵本をつなぐ取り組みと誕生祝記念品の

贈呈」とした。

20 ページのペープサートの注釈は用語説明でブックスタートを除いたため番号が変わった。

同じく 20 ページ、「行政」という言葉が入った。

23、26 ページの注釈も番号が変わった。

29 ページに委員会の構成について書いていただき、「定期的に進捗状況の確認を行う」ということを入れていただいた。

36 ページには本日の委員会について、今行っているパブリックコメントの「検討」に言葉が変わっている。

38 ページ、ブックスタートが消えた関係で、11 から 16 の番号が若返っている。

以上が変更点だが、意見等はいかがか。

子ども読書活動推進に関する大本の計画であるので、細かいところまで決めてあるわけではないので、いただいたご意見が必ずしも反映されているわけではない。

概ね赤字の見直しおよび削除したもの等についてはよろしいか。

今回、かなり細かいところまで課長調整、部長調整がされたと伺っている。その結果ということで見直しが妥当ということで判断してよろしいか。

この後は特段の計画（案）の修正がないので、もう一度文言のチェックをしていただき、今回の計画（案）を教育長に報告をするという流れでこの委員会の使命は終えることになる。

委員：脱字を一つだけ。32 ページ 3 「本を楽しむこと（の）できる」

「の」が抜けている。

委員長：パブリックコメントの結果 No. 4 の市の考え方「貸出券（を）作成しています」

「を」が抜けている。

修正して最終案に仕上げるということでご了解いただきたい。

検討結果を教育長に報告する。

10 人 42 項目のご意見をいただいて、市民の方の関心も期待もあるかと思う。

その大きな期待が新図書館の建設で実現するところもあろうかと思うし、まだ 2 年あるので是非、具体的な取り組みのなかで検討していただくことを期待して本日の委員会を終了する。